

Q1・目指すクロッキーや憧れているクロッキーは、どのようなものですか？

大きな流れか、細部か、空間か、目的に応じて捉えるべき要点を的確に踏まえたクロッキーです。

Q2・クロッキーで大切にしている要素は何ですか？

思い切り。探らず、一手ずつ決めていく意識です。

Q3・何分のクロッキーが好きですか？また、時間に制約がある事には、どんなメリットがありますか？

10分程度から徐々に短くし、2-3分まで短縮する流れが好みです。時間の制約があることで、頭で思考する余裕を排除し、より身体の動きと直結したフォルムの追求が可能となる点がメリットとして挙げられると考えています。

Q4・画面の大きさの好みはありますか？理由があれば教えてください。

木炭紙大を使うことが多いです。取り回しが容易で、ポーズ中にも紙を取り替えやすいためです。

Q5・クロッキーの描き出しはどんなことに気を使いますか？

その画面に何を捉えるべきか、初手を入れる前に目的を明確にすること。

Q6・クロッキーの終盤にはどんなことに気を使いますか？

残り時間の中で可能な仕事を把握し、優先順位を整理すること。

Q7・クロッキーをしていてどんな時に慌てますか？また、どんな時に確信を得ますか？

中盤でプロポーションのズレに気づいた時、慌てます。逆にこの段階でよく収まっていれば確信が得られます。

Q8・動きのあるポーズと静的なポーズどちらが好みですか？又は好きなポーズの傾向はありますか？

描きやすさとしては動的なポーズですが、ポーズに合わせてこちらが如何に対応できるかという点を重視しているため、基本的に選びません。

Q9・手に取る画材によって、描く対象の見え方は変わりますか？

画材の特性によって、対象から抽出する要素に変化が現れると感じています。立体か、色彩か、空間の中での見え方か、ポーズや画材によって狙いを変化させることも力のうちと考えています。

Q10・クロッキーとそれ以外の作品との関係性をどう考えていますか？

クロッキーはいわば作品を創るためのツールで、基礎を鍛え、感覚を研磨するものと考えています。そうして研いだツールでモチーフを切り出してタブローにしていく感覚があります。